

地域づくりにおける 地産地消活動の意義と可能性

慶應義塾大学

政策・メディア研究科 修士課程2年

地場 裕理子



地産地消活動の類型

■ 活動形態

- 直売活動（農水産物直売所、量販店のインショップ）
- 飲食提供（レストラン、宿泊施設、グリーンツーリズム）
- 食育（学校給食への食材提供、生産者による食育授業）

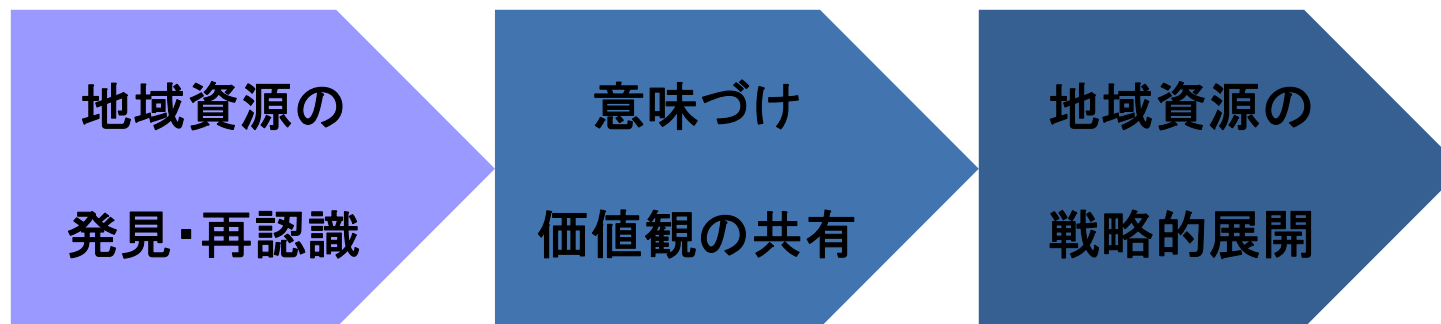
■ 担い手

- 生産者、生産者組織
- 消費者組織
- 行政
- 小売業、食品メーカー

生産者と消費者の距離の近さ&コミュニケーションの深さ

地産地消の意義 ~まちづくりの観点から

- 活動そのもの、プロセスがまちづくりにつながる
 - 単なる流通形態ではない
 - 消費者、生産者、事業者の相互的かつ能動的な関係性
- 資源化のプロセス(飯盛 義徳)
 - 活発な活動に共通して観察される
 - 生産者と消費者の出会いによって促進される



事例紹介

愛媛県内子町
内子フレッシュパークからり





事例1:内子フレッシュパークからり

- 愛媛県喜多郡内子町の「道の駅」
 - 特産物直売所、レストラン、加工品工房、体験施設
- ITの活用
 - 販売管理・売上情報送信システム「からりネット」
 - トレーサビリティシステム
- 経営状況
 - 町と住民の共同出資による第三セクター
 - 年間来場者80万人超、売上高6億7千万円(平成18年度)
- 受賞歴
 - 農商工連携88選、日本農業賞、日経地域情報化大賞

内子フレッシュパークからり





愛媛県喜多郡内子町

■ 概要

- 松山から約40Km
- 総面積(約300km²)の7割が山林

■ 歴史

- 四国遍路の要衝
- 木蠟、和紙の生産で繁栄(江戸～明治期)
- 白壁の町並み

■ エコロジータウンうちこ

- 町並みから村並みへ

■ 農業

- 葉タバコ→落葉果樹

内子町





1970年代半ば～

- 町並み保存の取組み
 - 八日町: 重要伝統的建造物群保存地区(1982年)

- 農産物直売所、観光農園の増加(1980年代)
 - ポスト葉タバコ

- 「知的農村塾」(1986年～)
 - 過疎化、農業後継者不足に対する危機感
 - 農家と行政がともに学ぶ
 - 講演と自主学習
 - 農家の自立、農村での高齢者・女性の役割など



1990年代～

- 農業活性化計画「フルーツパーク構想」(1992)
 - 果樹農業と町並み観光との相乗効果
 - 農業の総合産業化
 - 内子産農産物のイメージアップ
 - 農家経営の安定、自立

- 集落座談会
 - 地域の現状の見直し
 - 2年間で延べ50回




産直実験施設「内の子市場」(1994)

- 74名の生産者が参加(6割が女性)

- 市場調査

- 出荷者の「訓練の場」
 - 理念の共有「内子産へのこだわり」
 - 価格設定、品揃え、接客のノウハウ
 - 出荷者同士の人的ネットワーク形成
 - 出荷、残品引取りに関するルール徹底




内の子市場がもたらしたものの

■ 出荷品目と最適出荷量の吟味

- 消費者ニーズに対応
- 出荷効率の向上

■ 課題

- 生産者名を明らかにしたい
- 正確・迅速な精算をしたい
- 残品の情報が欲しい
- 直売所の販売情報が欲しい




特産物直売所からりオープン(1996)

- 「からりネット」
 - 双方向農業情報連絡システム+POSシステム
 - 畑の中の「かんぱん方式」
 - 携帯電話で売上データ入手

- 株式会社内子フレッシュパークからり設立(1997)
 - レストラン(1997)
 - 加工施設: 燻製工房、パン工房など(1998)

- トレーサビリティの取組み(2005～)



内子フレッシュパークからり～成果

- 農家一人ひとりがマーケティングを実践
 - 内子町農産物の強み～差別化を意識
 - 消費者が求めるものは？～ニーズの把握
 - 顧客志向→からりネット導入
- 生産者同士のネットワークづくり
 - 多事業展開: レストラン、加工品開発
 - 消費者交流イベント
- 安全・安心への取組み
 - トレーサビリティ




事例2: 十和おかみさん市

- 十和地産地消運営協議会
 - 農家、JA、行政などで構成
- 様々な地産地消活動を展開
 - 直売(現地直売所、高知市内インショップ)
 - 飲食提供(道の駅でのバイキング、体験ツアー)
 - 食育(学校給食への食材提供、食育授業)
- 受賞歴
 - 農林水産祭 内閣総理大臣賞、日本農業賞 食の架け橋賞、国土交通省 地域づくり協議会会長賞

十和おかみさん市





高知県高岡郡四万十町十和(旧十和村)

■ 概要

- 高知市から約110km、愛媛県宇和島市から約60km
- 林野率90%:四万十川中流域の純山村

■ 農業と林業の複合経営

- シシトウ、ナバナ、茶、椎茸、栗など

四万十町





1960年代半ば～

- 集落活動～女性加工グループの組織化
 - 都市との経済格差、過疎化、高齢化
 - 原材料だけの生産にとどまっていたは地域の経済発展はのぞめないという危機感
 - 地元産物を利用した農産加工品の製造・販売
 - 直売所の独自設置

- 集落から村域連携へ
 - 農業・自治活動での女性の役割増大



1990年代～

- ふるさと産品協議会(1997)
 - 加工技術向上、新商品開発、販路拡大で連携
 - 「十和ふるさと便」
 - 農林産物と加工品詰合せのゆうパック
- 十和村いちかばちか実行委員会(1998)
 - 非農家も含めた女性たちのネットワーク
 - 幡多郡地区の女性サミット開催
 - 農村での女性の在り方、自分たちの暮らしについての議論
- 十和村女性ネットワーク(1999)
 - 婦人会、村内全ての女性活動グループの連携・交流



2000年代～

- 高知市「日曜市」での直販活動
 - 高知市中央商店街で毎週開かれる街路市
 - 最初は出荷のみ→見に行こうか→自分たちで販売
- 十和地産地消運営協議会「おかみさん市」(2001)
 - ふるさと産品協議会、JA女性部、高知はた農協、十和村、(株)四万十ドラマで構成
 - おでかけ台所(高知市内での販売)、十和の台所(地元直売施設)、学校給食への食材提供



2000年代～

- 都市住民との「こころと心の交流」
 - 直販から都市住民を招く「おもてなしツアー」へ(2006)
 - おもてなしメニュー&農業体験・自然体験
 - 地域資源や食文化を見直すきっかけ
 - 郷土料理レシピ集づくり
- 環境ISOの取組み「おかみさん宣言」
 - 生産者全員がISO14001認証取得
- 道の駅とおわへの参画
 - おもてなしバイキング



十和おかみさん市～成果

- 消費者のニーズや嗜好の把握
 - 「次はこうして売らんといかんがよ」「あれが売れるんじゃないやろか」「もっと沢山販売できたらええね」
- 都市住民との交流
 - 自分たちに何ができるのか～地域を見直すきっかけに
 - 食材・郷土料理・自然資源の再評価や勉強会
- 安全・安心への取組み
 - ISO14001の認証取得
 - 消費者の健康、四万十川の環境保護



まとめ:2つの事例の共通点

- 息の長い活動
 - 地道な勉強会の積み重ね、新しい取組みへの挑戦
- 生産者と消費者との直接対面
 - 生産者の活性化、消費者の活性化
- 地域づくりの視点
 - 自分達が地域づくりに貢献しているという誇り